

禁煙支援をテーマとした 多職種連携教育のこころみ

安井 浩樹 氏

名古屋大学医学系研究科地域医療教育学講座 准教授



全体発表と多学部学生によるディスカッション

要旨

名古屋大学地域医療教育学講座では、様々な学年や場面での多職種連携教育 (Interprofessional Education; IPE) を推進してきた。特に臨床実習中の医学部5年生と名大病院で実務実習中薬学部5年生を対象にした模擬患者参加型実習は、2年にわたり約400名の医学生、薬学生(一部看護学生)が参加し、チームワークやコミュニケーション能力向上効果を示してきた。今回は、従来の気管支喘息や糖尿病の患者指導に代えて、新たに禁煙外来における禁煙支援のシナリオを作成し、医学、薬学生協働と、模擬患者参加による禁煙支援現場でのIPEを行った。一連の活動では、シナリオ作成ワークショップ、模擬患者トレーニング、関連学会参加によるIPEに関する最新知見の収集と導入を行い、また、内外の講師による禁煙支援に必要な基礎知識の学習用ビデオを作成し、e-learning教材としてWeb上にアップロードした。平成27年1月より3月までの3回にわたり、名古屋大医学部5年生21名、名城大薬学部5年生17名、名古屋大看護学科4年生9名を対象とした多職種連携教育を実施した。平成27年3月に第177回全国禁煙アドバイザー育成講習会in 名古屋・三重を開催し、一連の活動や教育成果の報告を行った。本教育活動は平成27年度以降も継続し、平成27年中は15回にわたって、禁煙シナリオを使った多職種連携教育を実施していく予定である。

1.はじめに

平成15年の健康増進法の施行以来、受動喫煙の防止や禁煙・禁煙治療が注目されている。平成18年よりは、ニコチン依存症に対する禁煙治療が保険適応となり喫煙率の低下等の成果が出始めている。しかしながら、ニコチン依存症の治療と禁煙の継続には、薬物療法のみならず、認知行動療法や禁煙支援といった多職種による総合的・全人的なアプローチが必要とされる。一方医療人教育の現場において、複数の専門職種の学生が共に学ぶ多職種連携教育 (Interprofessional Education; IPE) が、注目されチームワーク能力、コミュニケーション能力の向上といった成果が報告されている。今回我々は、禁煙支援現場のシナリオを作成し、模擬患者を使ったシミュレーション実習として、医学生(5年生、21名)、薬学生(5年生、17名)、看護学生(4年生、9名)によるIPEを実施したので、その概要を報告する。

2.禁煙支援シナリオ作成ワークショップ

平成26年7月4日、名古屋大学医学部において、禁煙支援シナリオ作成会議を、医学、薬学、看護学の教員6名で実施した。特別講師に奈良女子大学教授で日本禁煙科学会理事長である高橋裕子先生と日本禁煙科学会理事である三浦秀史先生をお招きして、禁煙現場でのニーズや患

表 学生用フェイスシート(指示と導入シナリオの一部)

あなたは、臨床実習生として入院中の手術予定の肺がん患者を担当することになりました。
 場面設定：呼吸器外科病棟の4人部屋に入院して2日目。看護師から患者が外来棟入り口で喫煙していたとの報告を受ける。喫煙に関して注意したが、禁煙していたことが確認できず、手術の延期が決定したため、禁煙についての今後の対策を考えるために面談室で相談することになった。患者は既に面談室にいる。
 患者氏名：鈴木尚幸 60歳 男性
 入院目的：肺がん治療
 現病歴：9月に受けた職場の健康診断の結果、肺の陰影があるため、精査が必要との通知を受ける。(10月末)12月初めに、近くの病院(200床)を受診。胸部のCT検査をしたところ、即日、大病院の呼吸器外科を受診するように指示され、紹介状と画像の入ったCDを渡され、自宅から1時間かかる大病院を受診した。大病院で診察後、肺切除が必要であり、3週間後の入院、4週間後の手術と日程を指示された。入院までに禁煙してることが手術の条件だと外来で説明を受ける。昨日、手術目的にて入院した。(以下省略)

者側の心理や葛藤などについて情報提供を頂いた。この日の議論では、急に肺の手術が必要になったニコチン依存症の患者に、医業看護学生が共同して、医療面接・情報収集、禁煙支援を行うシナリオとすることや、事前学習(e-learning)用のビデオ作成を行う事等を決定した。

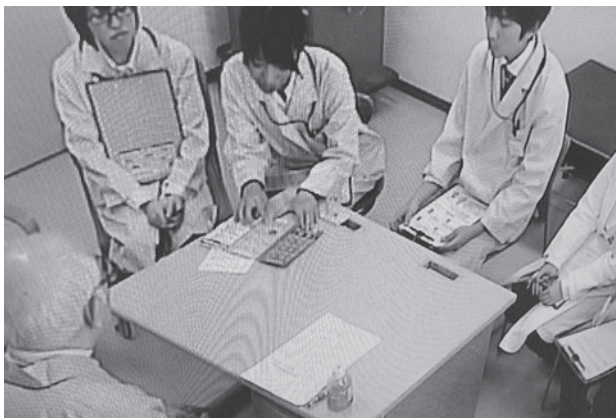
3. 模擬患者養成とビデオ撮影

平成26年10月22日、11月13日、平成27年1月9日に3名の男性模擬患者に対して、シナリオの役作り、学生へのフィードバック練習、実地練習などを行った。平成26年12月9日には、名城大学薬学部において、事前学習用のビデオ撮影を行い、先の高橋、三浦両先生に加えて、毛利彰宏先生(名城大学薬学部)や実際の現場で禁煙支援にあっている奥村智宏先生(はぐろ薬局)、池田亜紀先生(アイシン高岳安全環境推進室看護師)を招いて、現場での体験等を交えながら、タバコの歴史、受動喫煙、禁煙外来の実際、ニコチン中毒とその診断、禁煙治療薬、行動変容支援とその段階、そして、喫煙患者の心理についてのレクチャービデオ収録を行った。このビデオは、名城大学薬学部の多職種連携教育のサイトにアップされ、後述の多職種連携教育の事前および事後学習教材として使われている。

4. 禁煙シナリオの多職種連携教育への適用

平成27年1月9日、2月6日、3月13日の3回IPEセッションを行った。

各セッションは、医学生、薬学生、看護学生の合計5~6名の学部混成チームを3つで、それぞれ学部毎に、模擬患者からの情報収集(当然その前提としては、患者への礼儀や共感等が求められる)を行い、その情報を持ち寄った上で、患者の禁煙を支援するための方法について話しあい、その禁煙支援計画を模擬患者にチームで説明する。最後には、それぞれのチームで議論した内容を発表し、学生



学生達と模擬患者さんの面談

教員で意見や感想を交換する。さらに、模擬患者からは、学生の言葉一つ一つや態度、表情からどのように感じたか、嬉しかった点、改善して欲しい点等のフィードバックをもらい、セッションは終了した。学生にとっては、一連の実習を通して禁煙に関する知識を身につけるだけでなく、他職種の役割理解を促進し、職種文化の違いを経験することにより、将来の地域医療現場でのチーム医療実践に向けての第一歩になったと考えられた。尚、禁煙支援シナリオを用いた教育セッションは、平成27年12月実習分まで15回継続される予定である。

5. 禁煙アドバイザー育成講習会

平成27年3月15日に名古屋栄ダイテック栄ホールにおいて、第177回全国禁煙アドバイザー育成講習会in名古屋・三重を開催し、新たな禁煙支援教育と多職種連携教育への取り組みとして一連の活動を報告した。同会には、地域の看護師、保健師、薬剤師等約100名が参加し、禁煙や禁煙支援に対する最近の動向等について、県内外からの特別講師の話に熱心に耳を傾けていた。

6. まとめ

禁煙支援場面でのSP参加によるIPEを計画し、シナリオ作成、教材作成、SPトレーニングを行い実施した。多職種によるチーム医療、禁煙支援といずれも今後の地域医療における重要なテーマであり、各学生においては、学生時代から他専門職種と交流し共に学ぶ機会をもてたことは、大変有意義であったと考えられた。

7. 謝辞

禁煙支援シナリオ作成に経験とアイデアを提供いただいた奈良女子大学高橋裕子先生、日本禁煙科学会三浦秀史先生、さらに、e-learning教材にご協力いただいた、はぐろ薬局奥村智宏先生、アイシン高岳看護師の池田亜紀さん、遠路育成講習会に駆けつけて貴重な講演をいただいた、さいたま市立病院内科館野博喜先生、大分伊藤内科医院薬剤師伊藤裕子先生、名古屋IPEネットワークに参加いただいている大学教員の先生方、そして、一連の活動に財政支援をいただいた杉浦昭子理事長はじめ、杉浦地域医療振興財団の関係者の皆様に深謝いたします。